

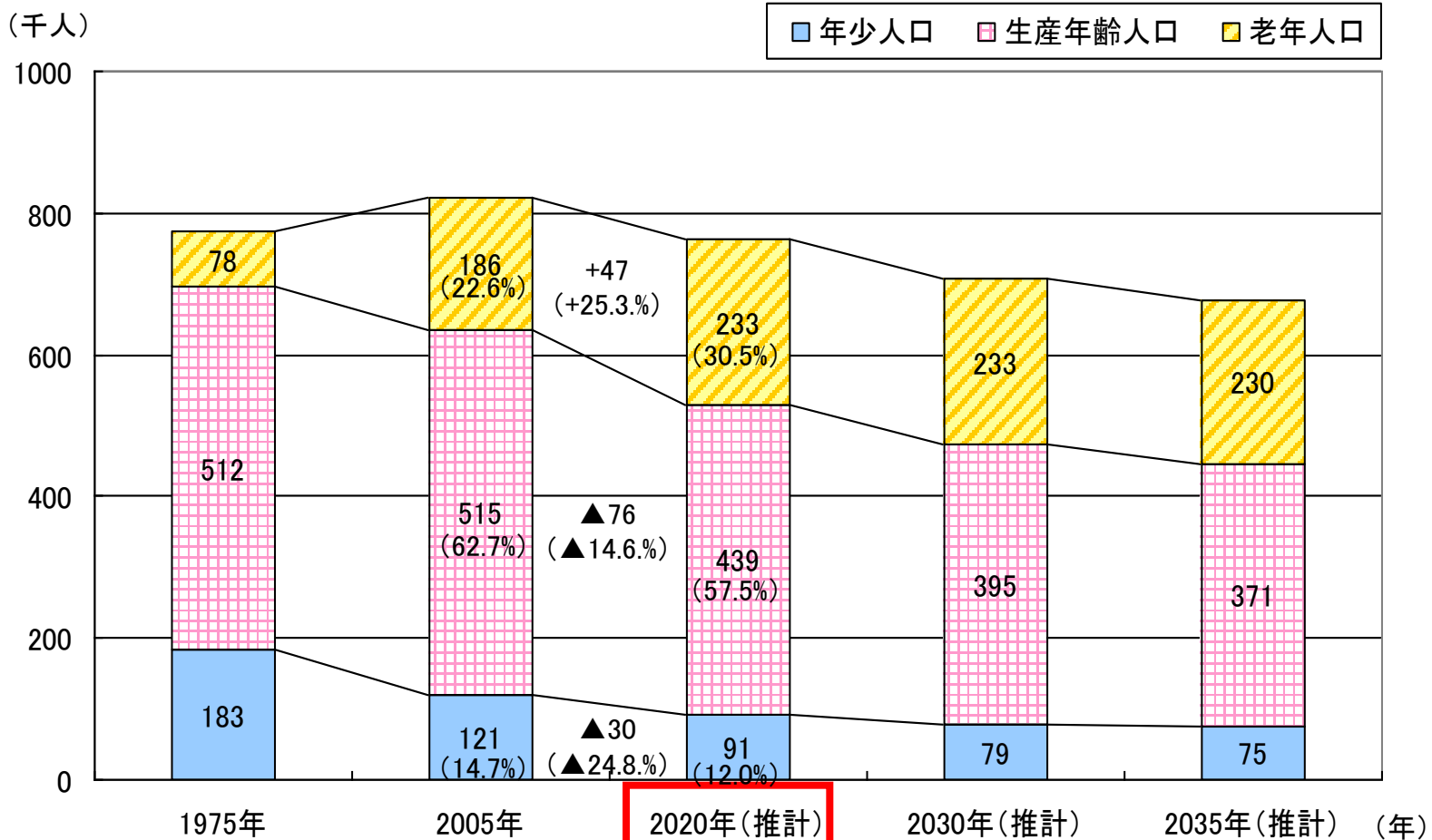
参考データ集

22.5.24

福井県民の将来ビジョン
地区別意見交換会

福井の年齢別人口構成比

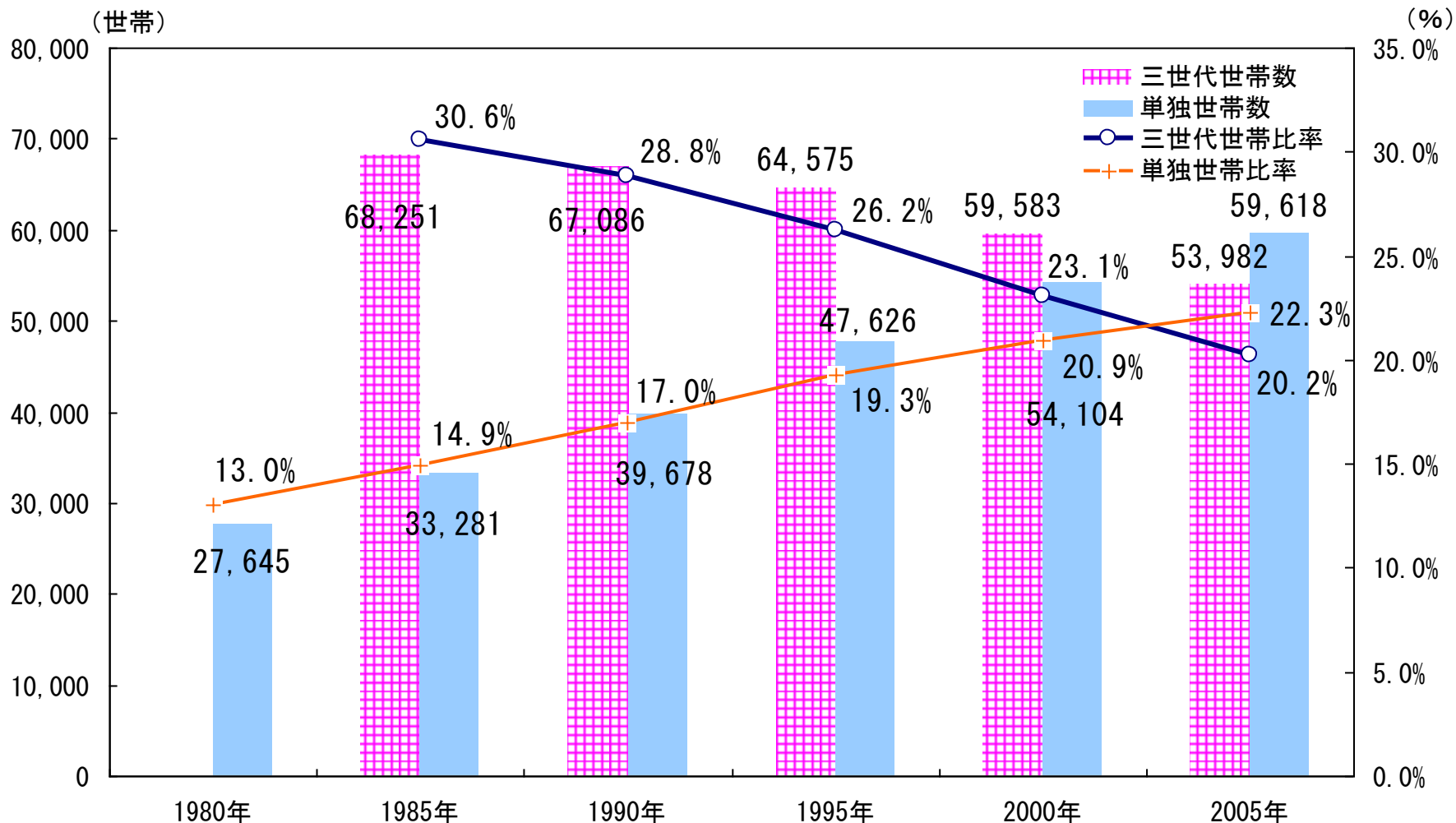
年少人口は、2020年には9万1千人と2005年に比べ3万人（24.8%）減少。
 65歳以上の老年人口は、2020年には23万3千人と4万7千人（25.3%）増加。約3人に1人が高齢者となる。さらに、生産年齢人口は、7万6千人（14.6%）減少。



出典：総務省「国勢調査」、「国立社会保障・人口問題研究所「『日本の都道府県別将来推計人口』（平成19年5月推計）」

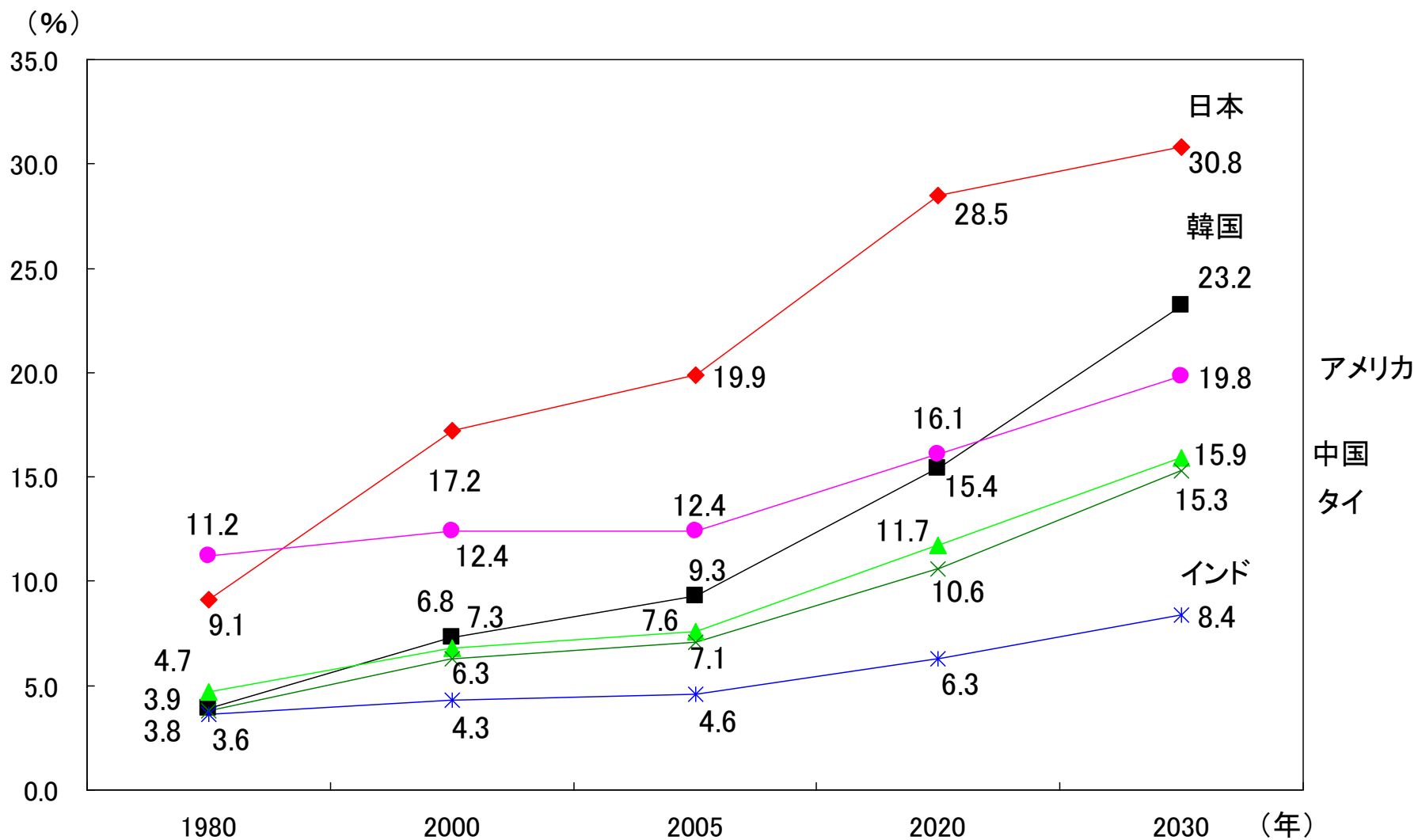
福井県の三世代世帯数と単独世帯数の推移

福井県の三世代世帯比率は、全国的に見れば高いものの年々減少。単独世帯が急速に増加。



出典：総務省「国勢調査」

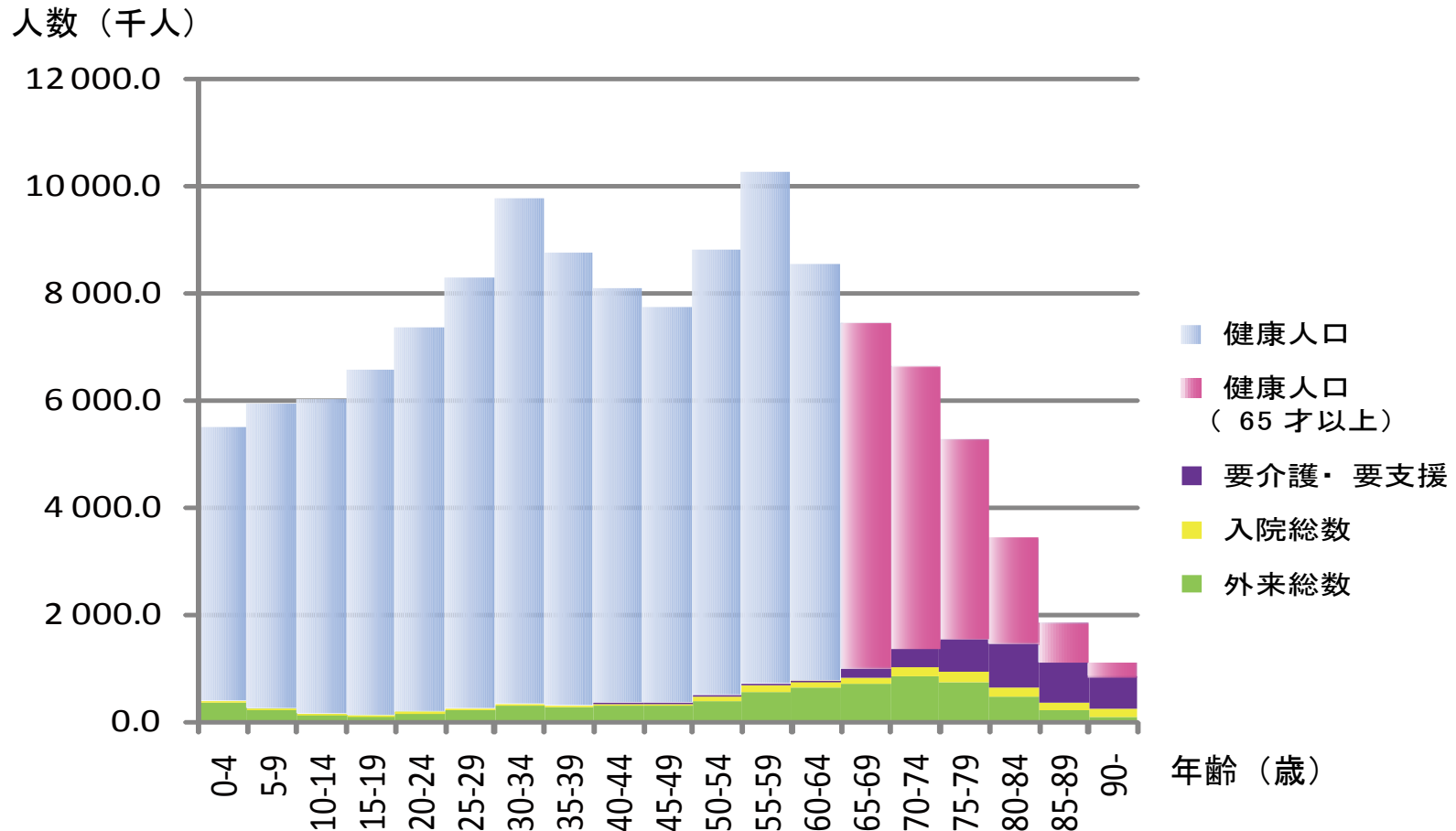
アジア各国の高齢化率の推移と予測



出典 : United Nations, World Population Prospects: The 2008 Revision

日本の年齢階層別 医療・介護・健康人口

70歳代後半で71%、80歳代前半では57%が介護・医療を利用しておらず、健康な高齢者が多い。

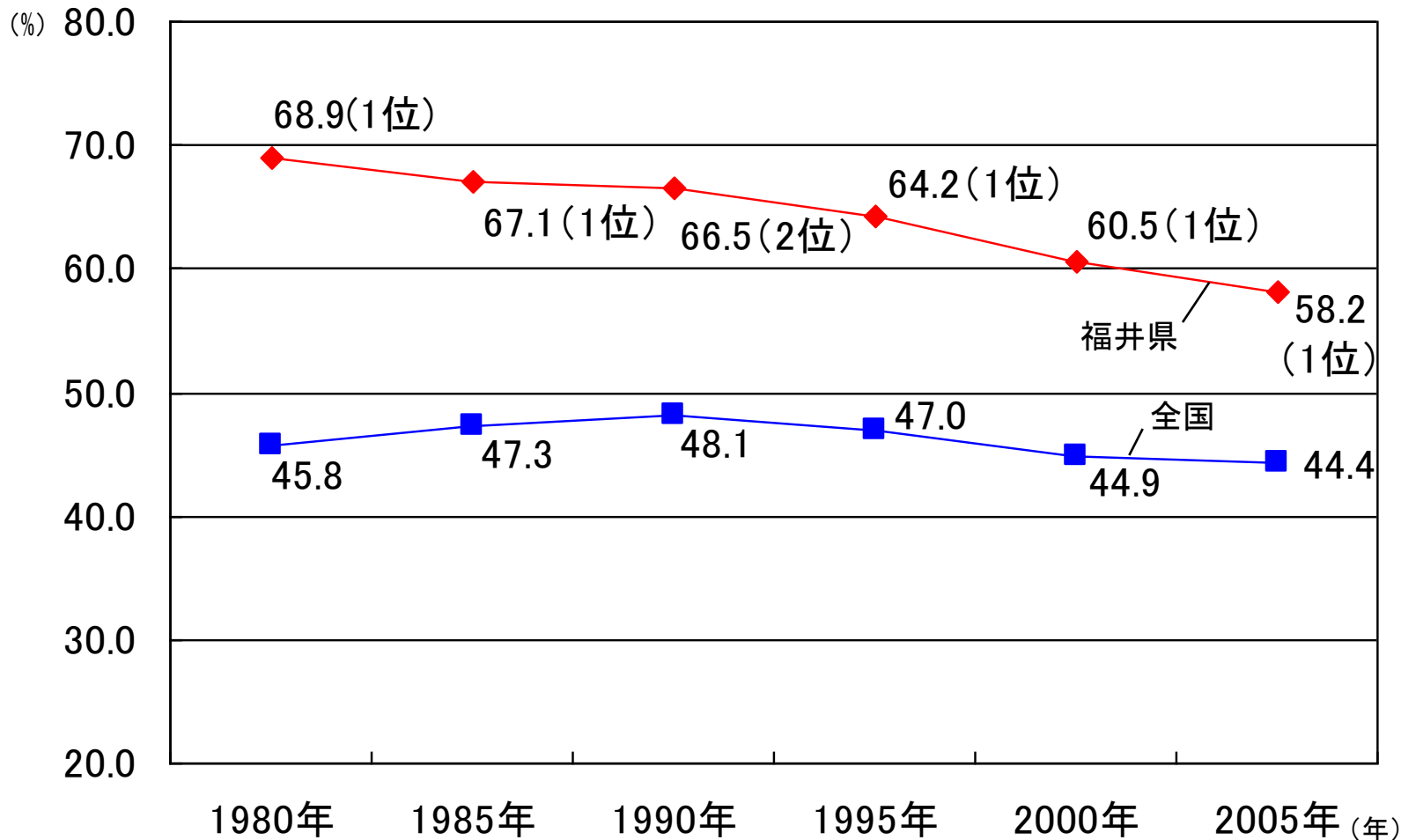


東京大学政策ビジョン研究センター作成

参考：平成17年国勢調査、厚生労働省平成17年患者調査、厚生労働省平成17年介護給付費実態調査

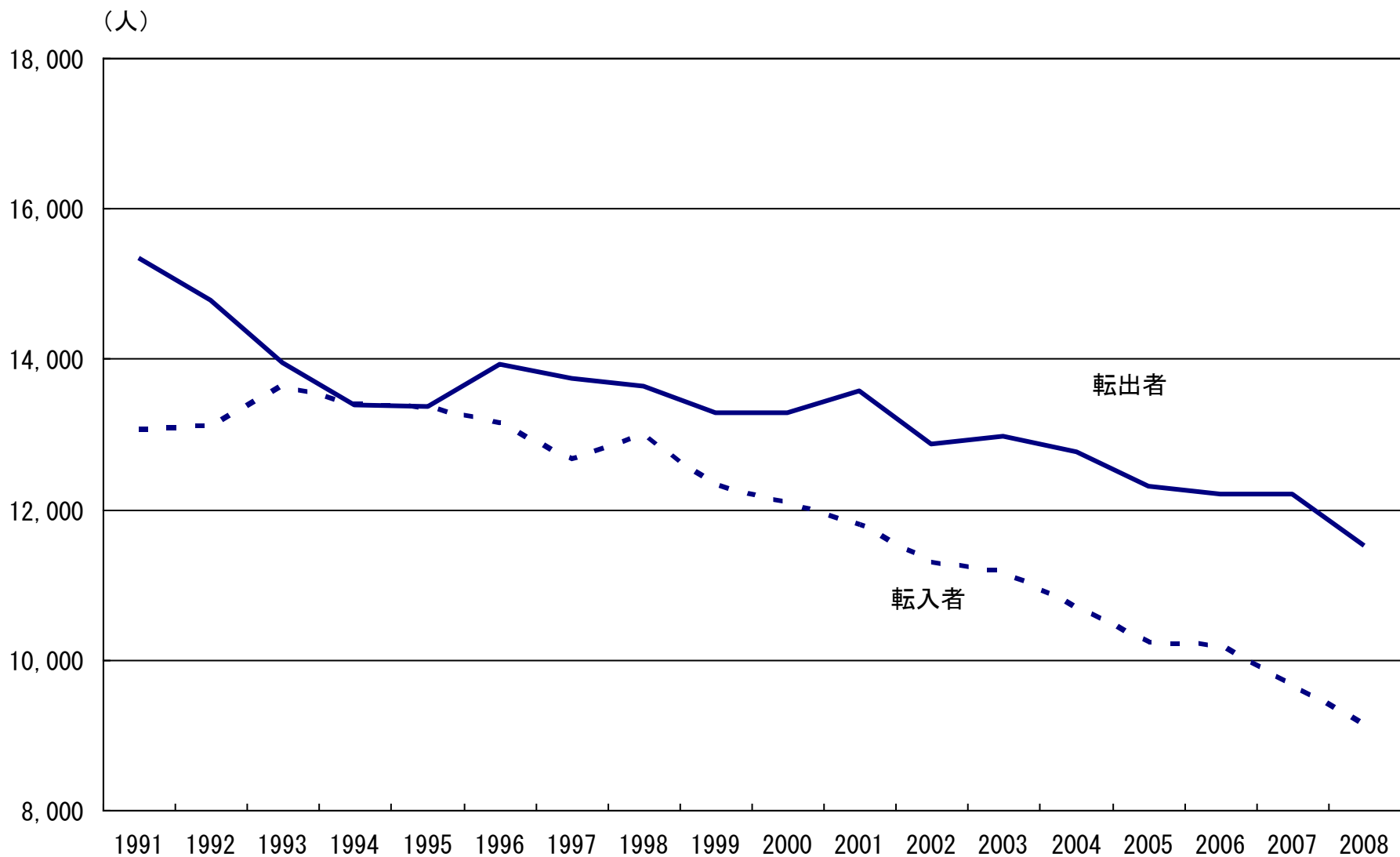
福井県の共働き率

福井県の共働き率は、58.2%で全国第1位（2005年）である。
※共働き率：夫婦のいる一般世帯数に占める共働き世帯数の割合



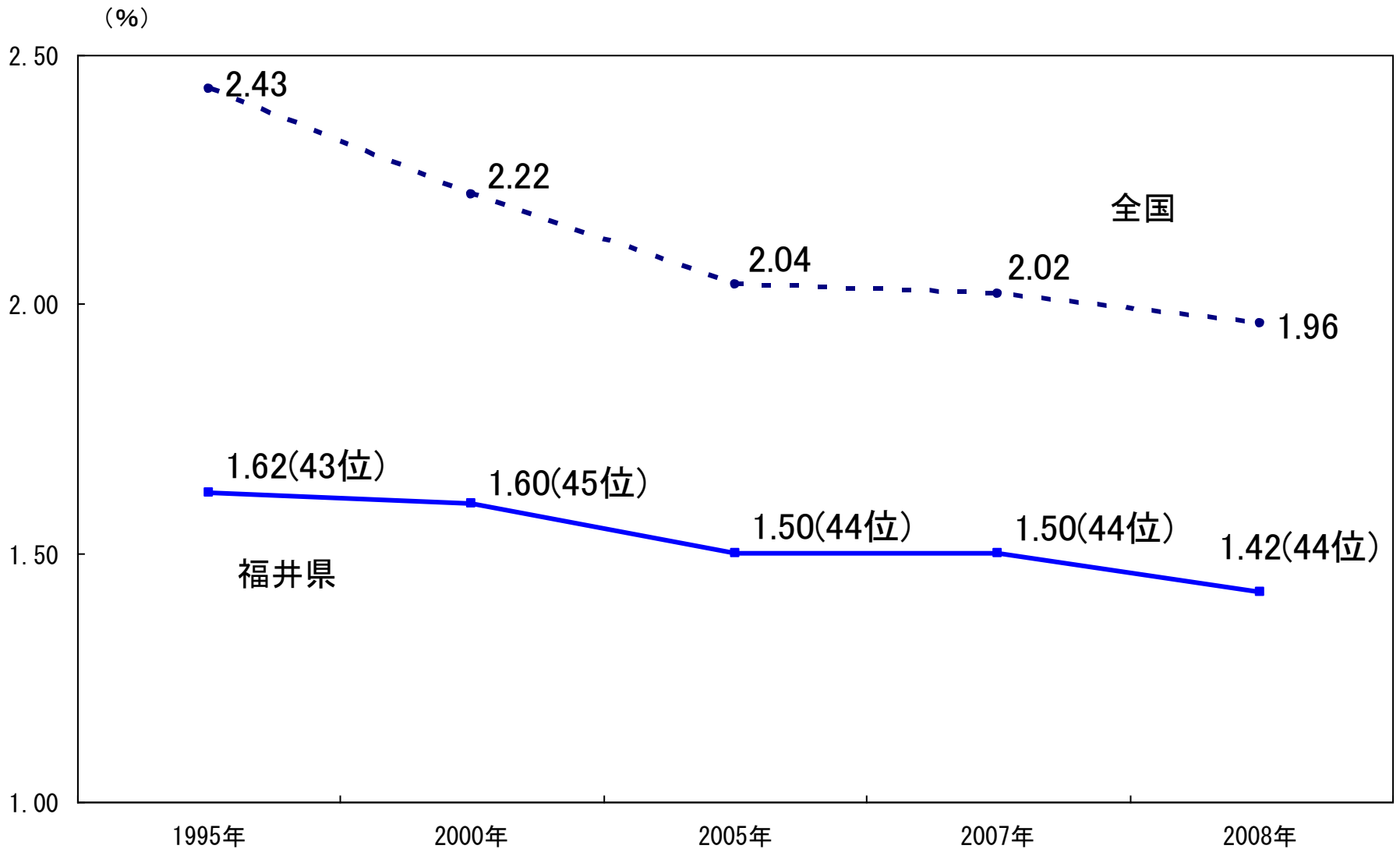
出典：総務省「国勢調査報告」

福井県の転出入の推移



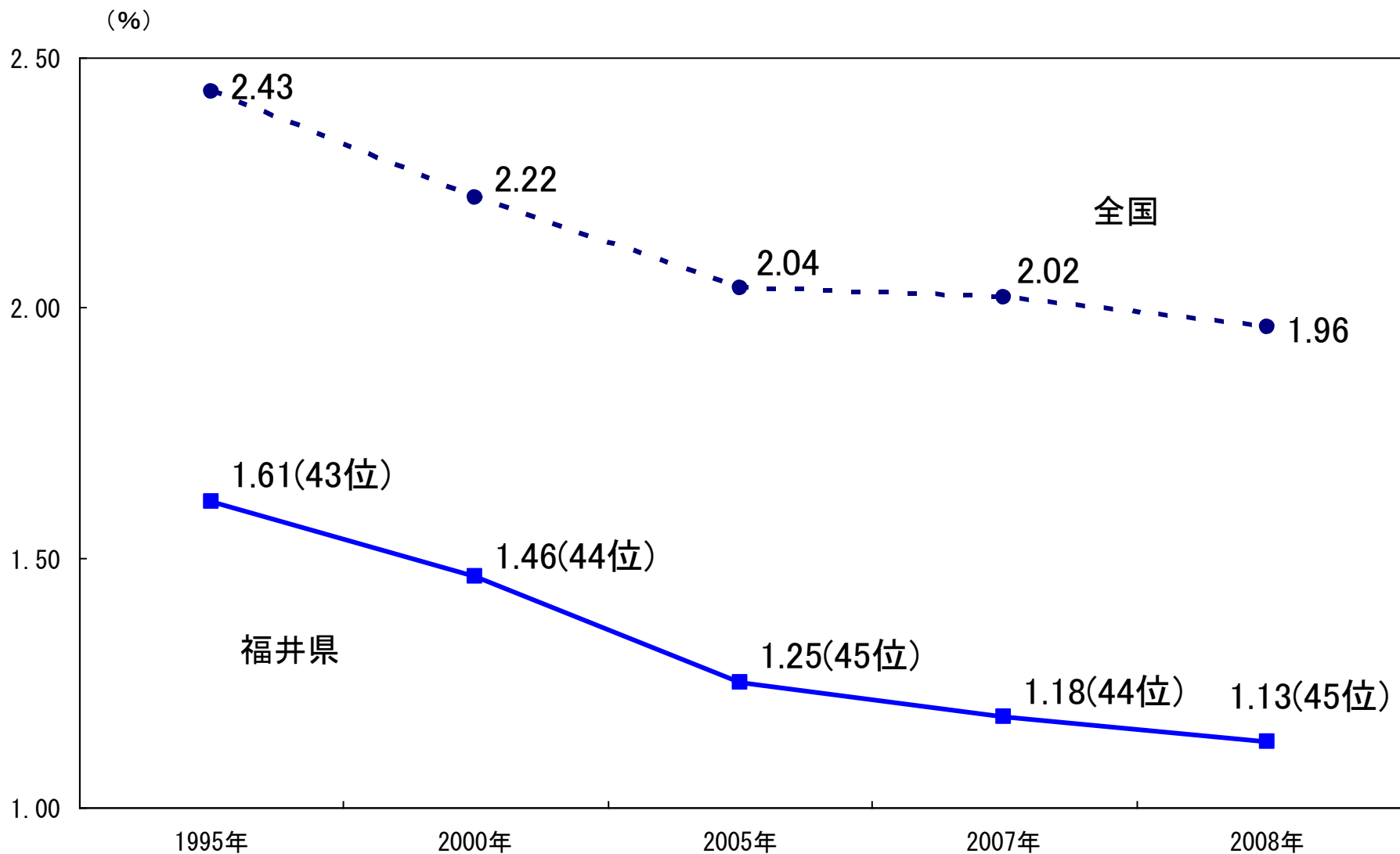
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

福井県の転出率の推移



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

福井県の転入率の推移



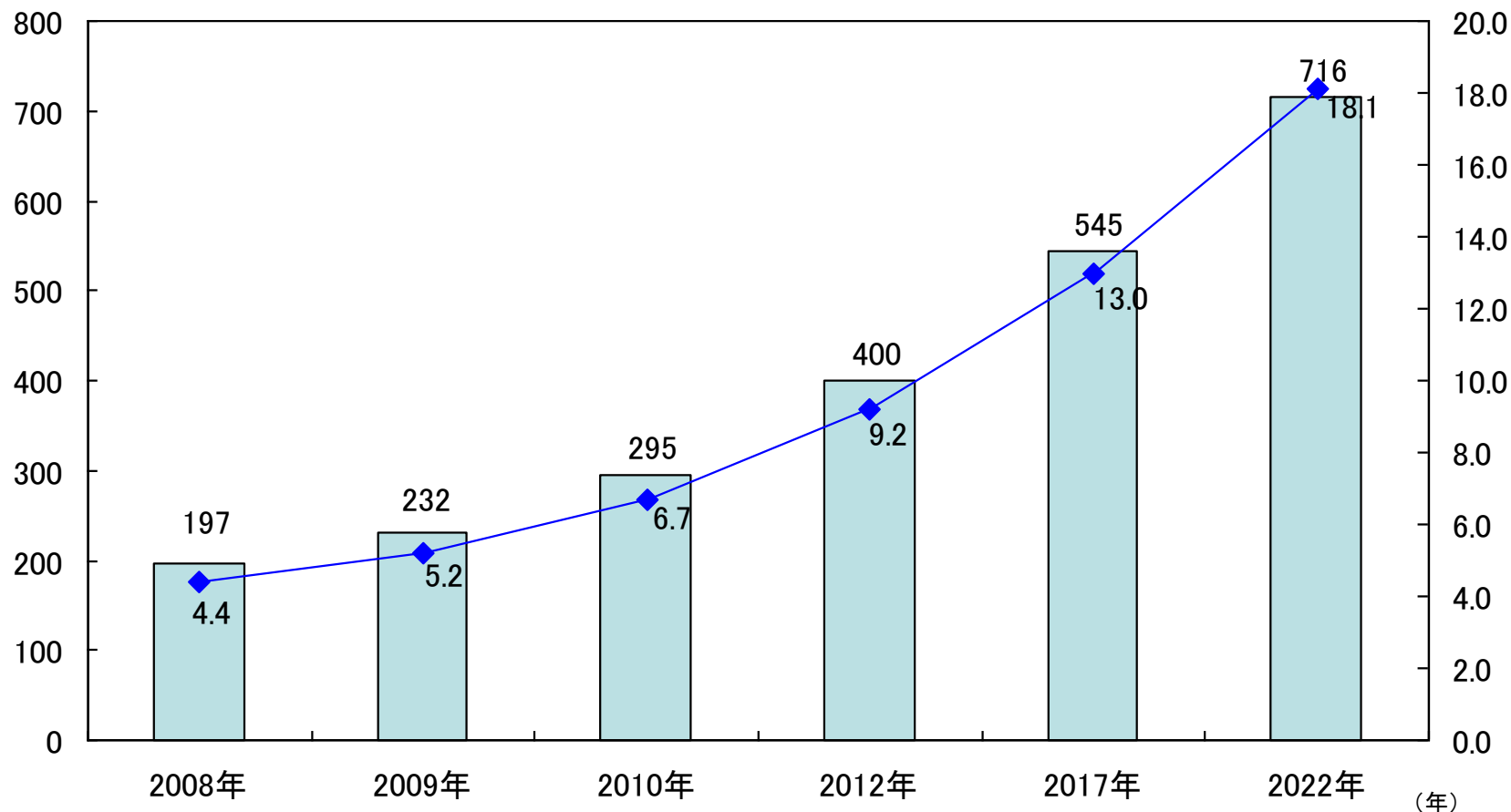
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

ふるさと回帰者の将来普及率と実践世帯数

従来のIターン、Uターンに加え、都市の本居はそのままに、地方に兼居する「二地域居住」等のふるさと回帰者が増加。今後も増加すると予測される。

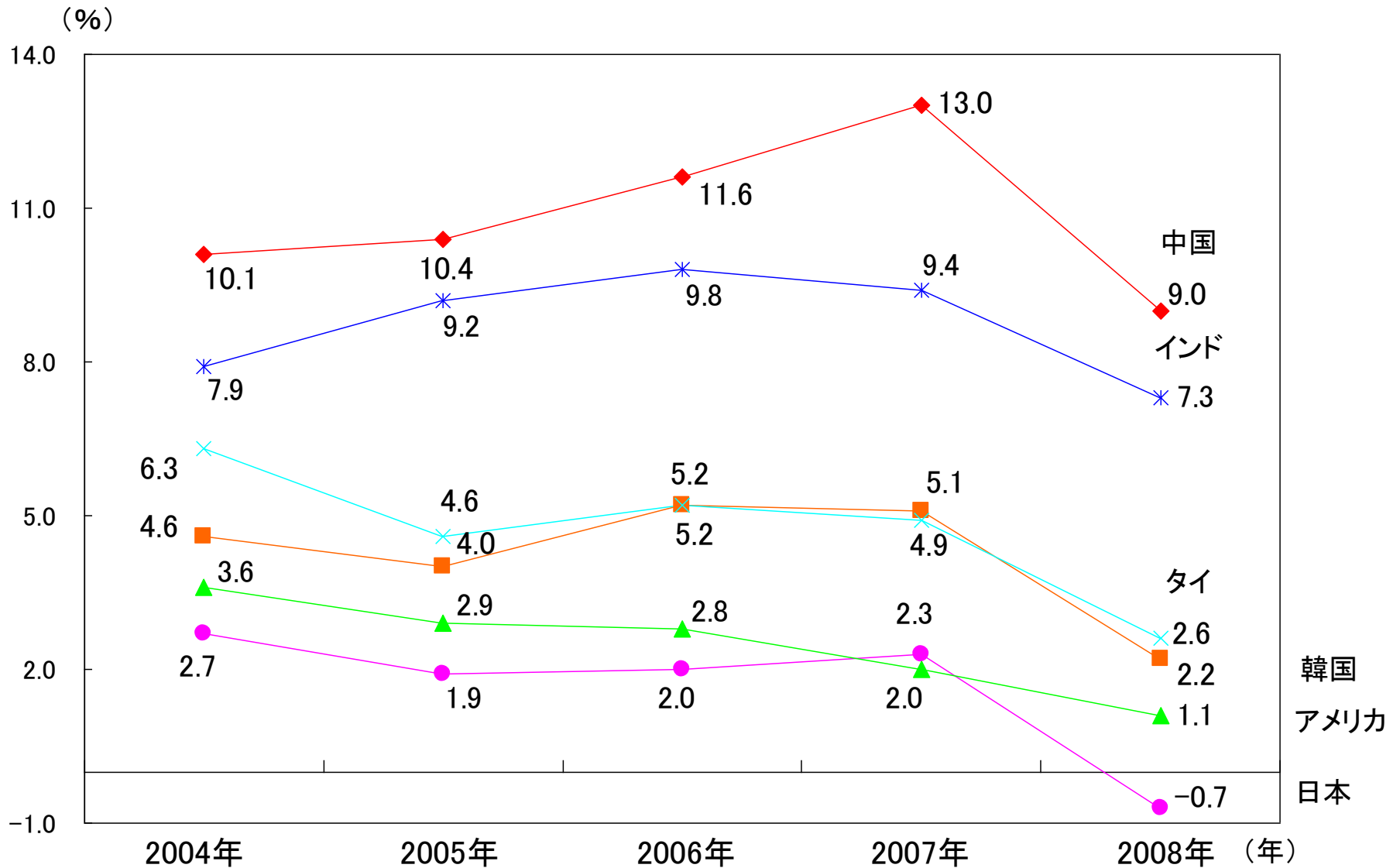
実施世帯数(万世帯)

普及率(%)



出展：国土交通省 (株)ふるさと回帰総合政策研究所
「平成19年度 地域への人の誘致・移動による市場創出の可能性及び方策に関する調査」

主な東アジア諸国のGDP成長率（1）

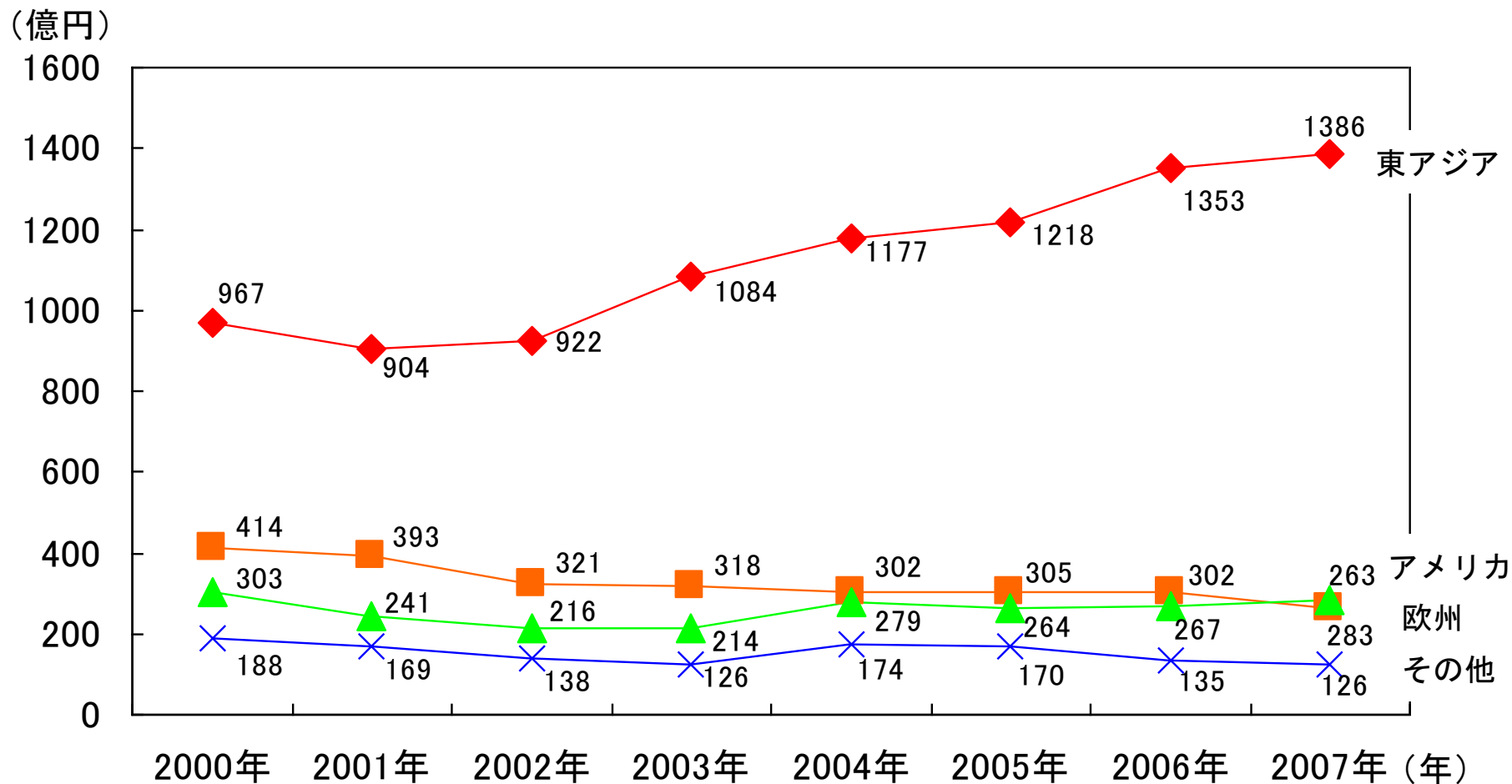


出典：ジェトロ、IMF資料

福井県の輸出額の推移

福井県の輸出額は、東アジア向けが年々増加。輸出総額2058億円の3分の2（67.3%の1386億円）を占める。（2007年）

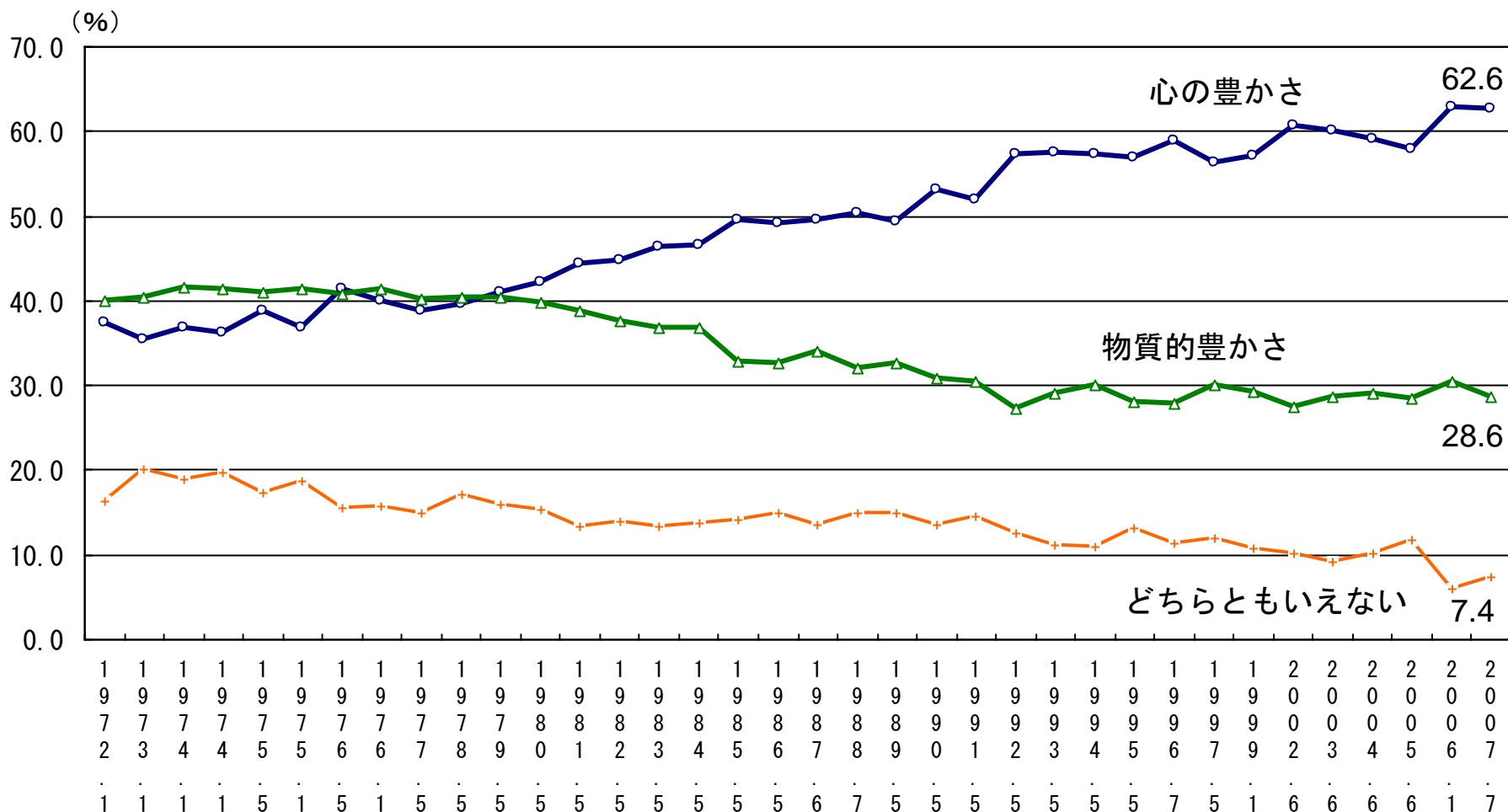
中でも、中国は東アジア全体の約5割（48%の662億円）を占める。（2007年）



出典：福井県「福井県の貿易」

「物質的な豊かさ」と「心の豊かさ」

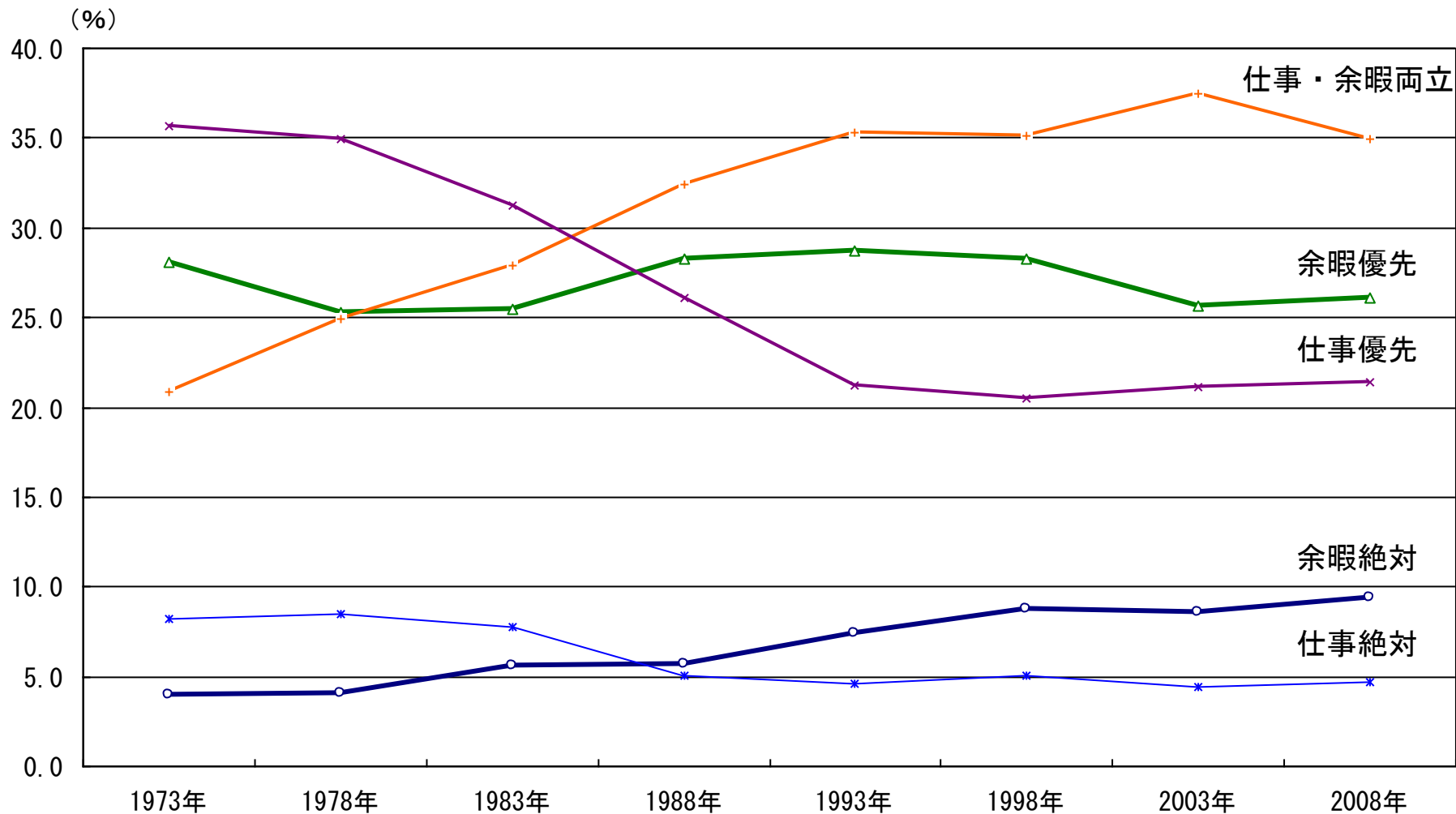
今後の生活において、心の豊かさか、物の豊かさかについて聞いたところ、「物質的に豊かになったので心の豊かさやゆとりのある生活に重きをおきたい」と答えた者の割合は62.6%。



出典：内閣府「平成20年社会生活に関する世論調査」

仕事と余暇の望ましいあり方

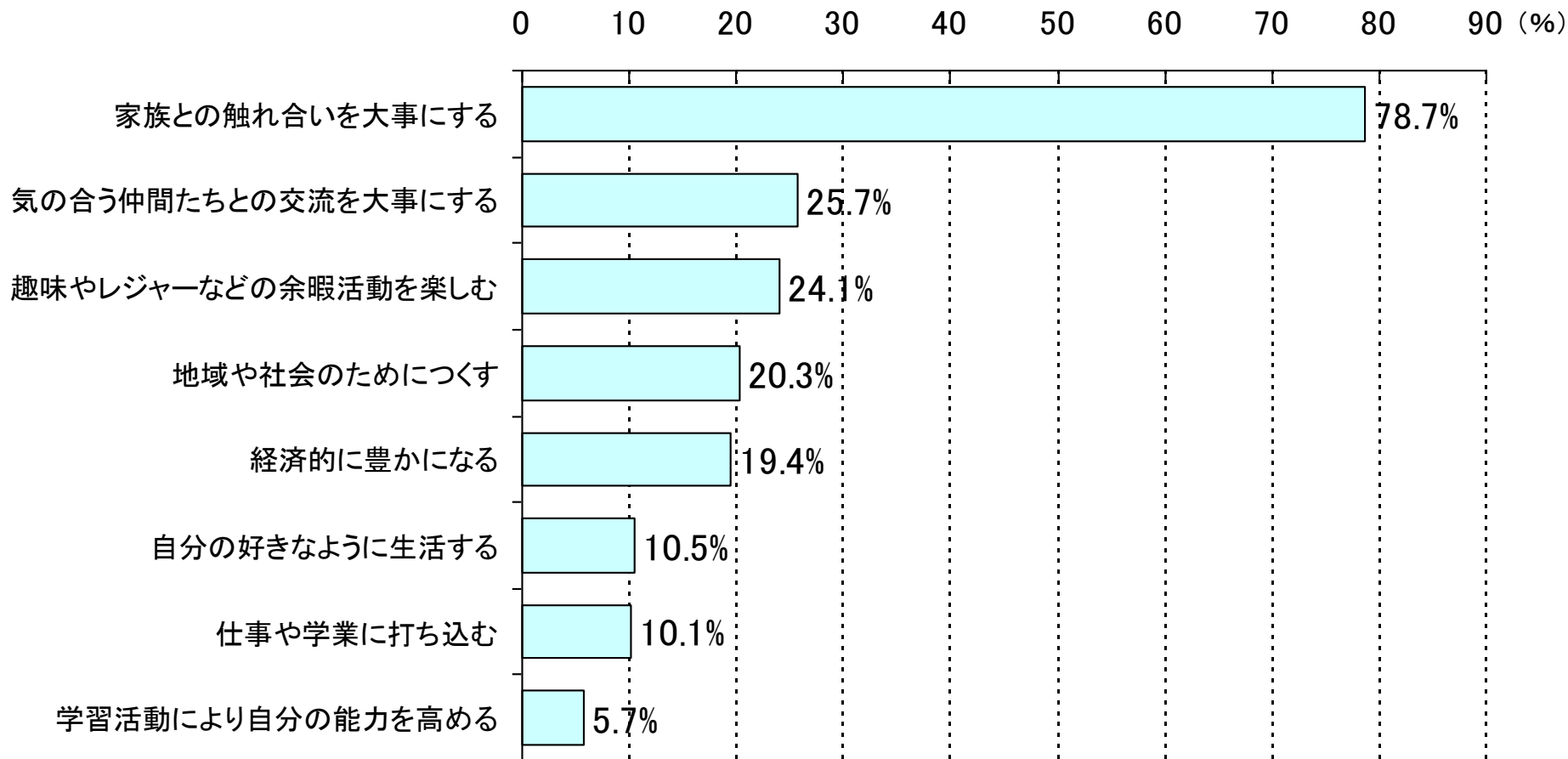
仕事と余暇のバランスについて、「仕事・余暇両立」が34.9%で最も支持されている。70年代に最も多かった「仕事優先」は90年代まで減少を続け、21.4%になった。



出典：NHK「現代日本人の意識構造（第7版）」

福井県民が大切にしたいと思っていること

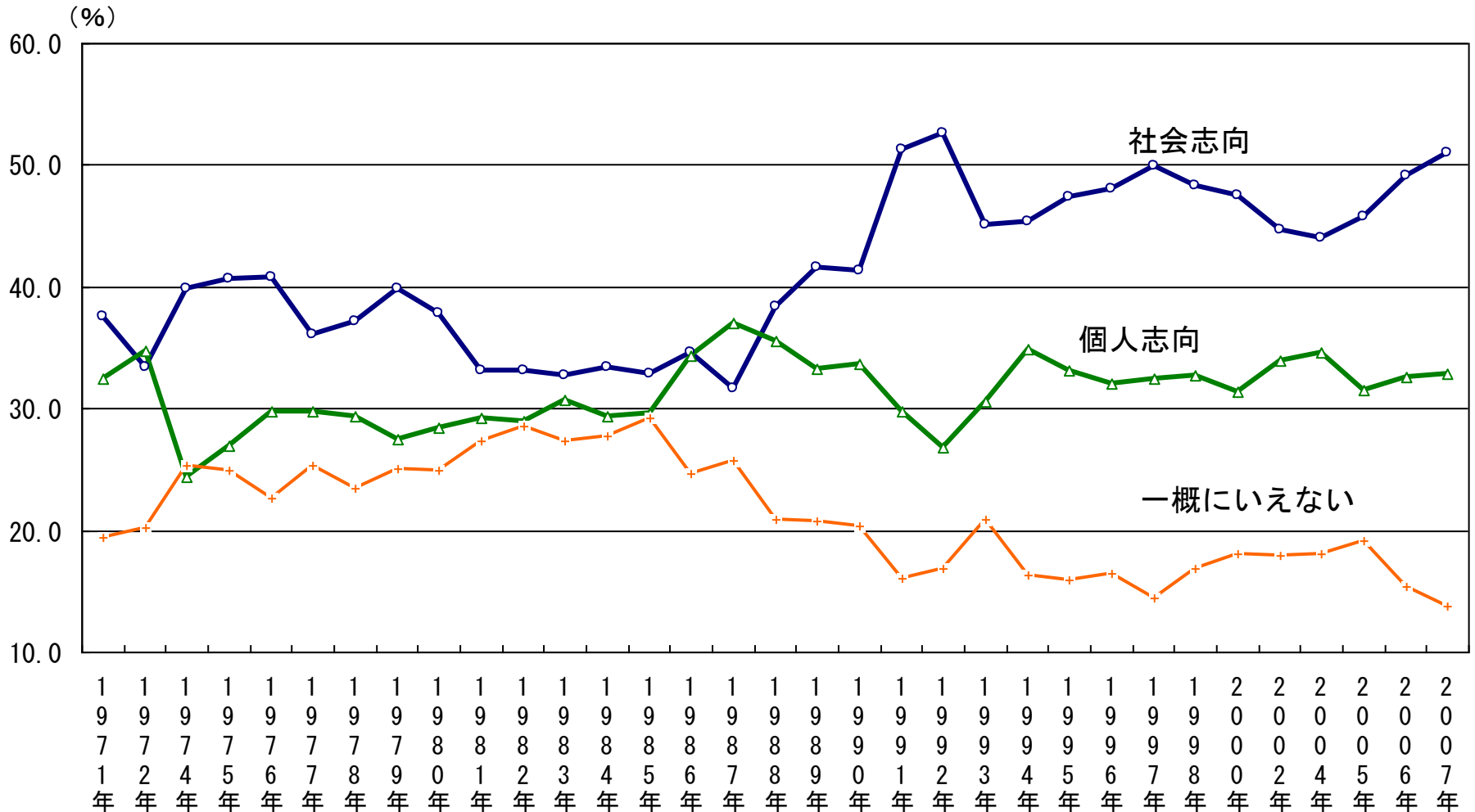
福井県民が「今後大切にしたいもの」について、約8割が「家族との触れ合い」を挙げており、「自分の好きなように生活する」などの自己本位の項目は非常に少ない。



出典：福井県「県政マーケティング調査（2004年12月）」

社会志向と個人志向に関する意識の変化

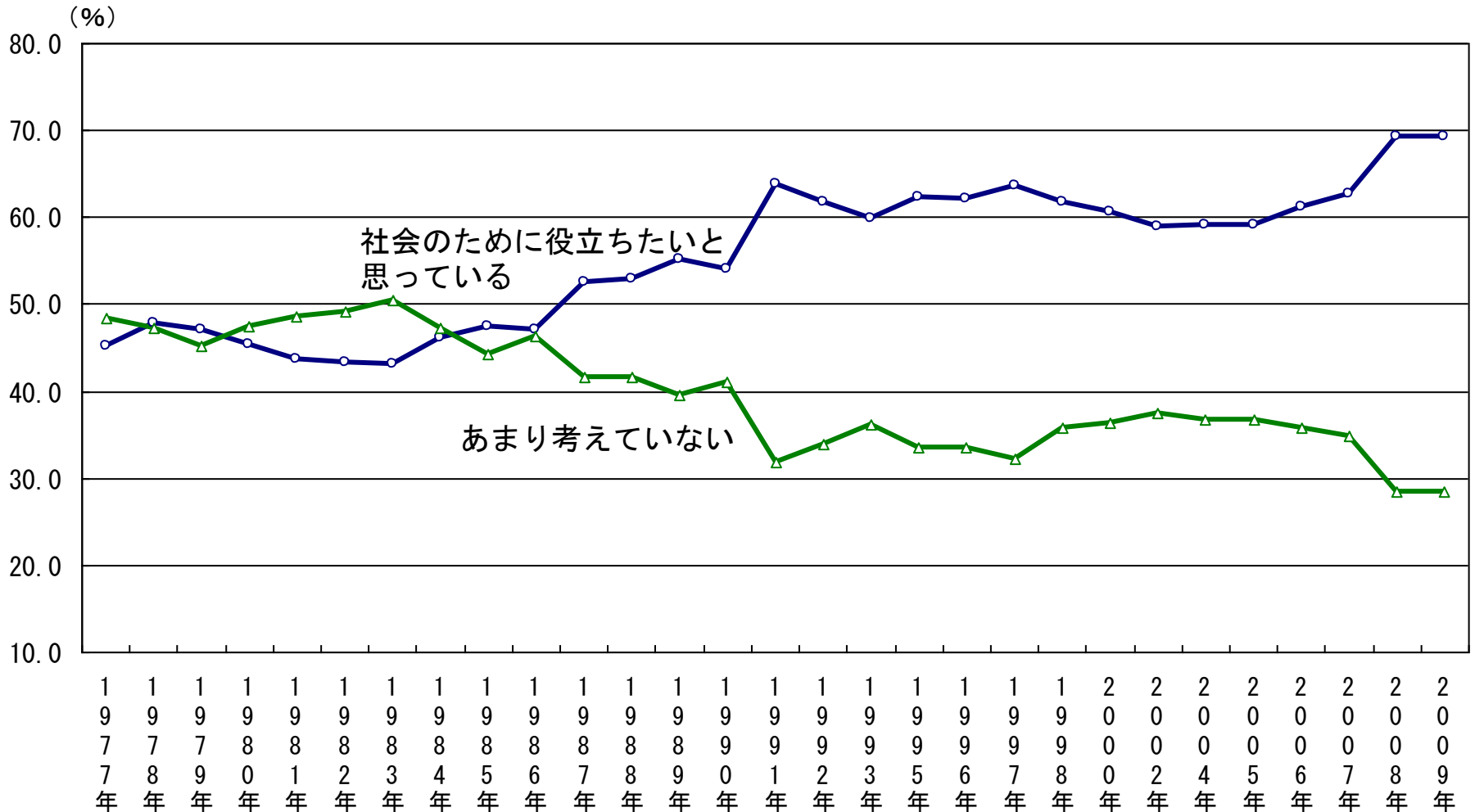
「国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」と考えている人の割合が増えている。



出典：内閣府「社会意識に関する世論調査」

社会貢献意識の推移

「社会のために役に立ちたい」と思っている人の割合は増加傾向にある。



出典：内閣府「社会意識に関する世論調査」